

第3回 総合計画審議会議事録

日時 2024年12月6日(金)

午前10時00分～午前11時30分

会場 新館1階 会議室4、5

1. 挨拶

○新沼会長挨拶

ずっと暖かい日が続いておりまして、もう12月というのもカレンダーを見なければ気がつかないほど、慌ただしく日々が過ぎているように思います。そんな中、お忙しい時間をお割きいただきまして、総合計画審議会にお集まりいただきありがとうございます。

一部報道によりますと、今年の全国の出生数が70万人を切るのではないかという予測が出ております。豊明市におきましても、この少子化というのは色々な影響を与えるだろうと思っております。今日の資料は、第2回と第3回の審議会の間に行われた、中学生から大学生までの若い世代に行ったインタビュー結果をまとめていただいております。しっかりとこの計画を練り、豊明市の未来を築いていく若い世代に引き継いでいきたいと思っておりますので、委員の皆様はご協力をお願いいたします。

また、事務局の皆様、資料等々をご用意いただきましてありがとうございます。本日も様々な意見が出るかと思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

○小浮市長挨拶

皆様、おはようございます。先ほど新沼先生からもありましたが、お忙しい中こうしてお集まりいただきましてありがとうございます。

この総合計画は豊明市の最上位計画になります。総合計画の方針に従って、他の計画や政策を考えることになります。皆様に考えていただき、最終的には決めていただくのですが、さまざまな形で市民にインタビューや意向調査を行っております。また、意向調査や団体インタビュー等にご参加いただいた方々の一部に、市民ワークショップに参加していただきました。私も3回開催した内の2回に参加させていただきまして、そこで色々なご意見があるということを重々理解しました。

その中で、豊明市は街路灯や防犯灯が少ないという意見を多く聞きました。ここ6年間、毎年市内3校の中学生と意見交換会をしておりますが、その中でもいつも言われる話であります。基本的に防犯灯については、地域で設置場所を検討していただき、設置費用の9割は市から補助して、維持管理は地域でもらっています。従来からずっとそうしていましたが、まちを明るくしすぎると、若者がたむろするなどの問題が生じ、各地域住人同士で調整するのは難しくなってきておりました。しかし、あまりに多くの若者の方々から不安という意見が寄せられたため、来年度に向けて3中学校区でそれぞ

れ市が防犯灯を取り付ける方向で進めております。このように、計画策定の過程でいただく意見は十分に尊重しながら、我々の政策として進められるものは計画完成前から進めてまいりたいと思います。

そういった視点で、意見の大小は関係なく、委員の皆さまそれぞれの立場からご意見をいただければと思います。

また、わからない点などございましたらおっしゃってください。よろしくお願い申し上げます。

2. 審議会の公開について

(新沼会長)

本日の審議会傍聴者が1名お越しです。本日の審議会について公開することし、傍聴人に入場いただきますが、よろしいでしょうか。

(一同) 異議なし。

傍聴人入場

3. 議題

(1) 第6次総合計画の策定経過報告について

事務局(企画政策課長)より資料1-1に基づき説明

事務局(地域問題研究所)より資料1-2～1-4に基づき説明

事務局(企画政策課長)より資料1-5に基づき説明

●質疑

(山田委員)

外国人に一回意見を聞いてみるのも面白いと思う。現在市内人口の6%強が外国人であり、今後増えることがあっても減ることはないだろう。そのため、外国人の目から見た時に、豊明がどうあるべきかがわかると参考になると思う。

(事務局)

外国人住民については、5月14日(火)にベトナム TOYOAKE の方々にインタビュー調査を行った。

ベトナム TOYOAKE は、10人程度で活動している団体で、活動の中で上手くいっていることは、カラットで開催したとよあけ春まつりで日本人のダンスチームと一緒にイベントをやったことや、ベトナム語で色々な遊びなどを通じた交流機会をつくっている。豊明市の魅力については、ベトナム人の方がたくさんいてコミュニティがあること、コンパクトなまちで便利かつ、ベトナム人も集まりやすい等の意見をいただいた。一方、課題としては、緑が少ないという意見があった。将来の豊明のありたい姿

については、もっと人口が増えてほしいことと、緑の多いまちになってほしいため、道路の脇などに大きな木があると良いという意見をいただいた。また、団体として現在課題に感じていることについては、活動費用が足りないことと、疲れてしまうためたくさんイベントを行うのは難しい等の意見が出た。

(小浮市長)

春まつりの実行委員長がいるので、補足をお願いします。

(古川委員)

2023 年から主人と一緒に春まつりを開催している。今話を聞きながら、私と主人が春まつりで実現していきたいことが、豊明市が向かっていく方向と一致しているということを感じられて、すごく嬉しく思った。私は子どもを4人育てているが、一番下の子は年が離れて生まれているため、誰かに頼って子育てをするという素晴らしさをとて感じた。そういったことを、春まつりを通じて豊明市民の皆さんに知ってもらうことが豊明市の発展や、盛り上がりにつながると考え開催している。

また、町内会の役員のなり手がいないという話が出ていたが、私もちょうど今班長をしており次の副会長を決めようとしているが、役員をやらなければいけないのならば抜けるという方が本当に多い。町内会に入っていることの意味と、役員をやることを天秤にかけられ、役員をやることが大変だからやめるというすごく残念な状況があると感じる。町内会に入っていることの意義が、もっと皆さんに伝わるようになるといいのかなと感じている。

(小浮市長)

春まつりというのは、外国人も含め、ありとあらゆる団体が参加している。夏祭りや秋祭りは行政が関わっているため、これまでに活動してきた既存の団体が中心となっているが、春まつりは、今まで市では知らなかったような団体まで参加している状態である。外国人の方からしても非常に垣根が低く、参加しやすい状態にしている。

また、ベトナム TOYOKAKE の方々は、年2回ほど唐竹公園でのイベントや、文化会館での行事なども行っている。

(岡委員)

中学生インタビューについて、インタビューを実施することで、若者の意見が吸い上げやすくて良いと思う。一方、先日子ども子育て会議に参加し、「こどもがまんなか」のまちづくりと言われていたが、子どもの権利を考えた時に、吸い上げるインタビューは中学校だと生徒会等の志ある生徒の意見しか吸い上げられないのではないかと思う。その他の大勢の子どもたちの意見も吸い上げられる機会があると、親にとって、また、

これから親になり豊明市の未来に向かっていく子どもたちにとっても良いのではないか。

（小浮市長）

今回のインタビューとは別になるが、中学生と意見交換会を毎年させていただいている。基本的に生徒会を中心に意見を吸い上げているが、例えば豊明中学校は、生徒会の生徒だけの意見ではなく、意見交換会の前に他の生徒に対して詳細なアンケート調査を行ったうえで臨んでいる。こちらから強制はできないが、生徒会と生徒会指導教員には極力生徒の総意を集めた状態で意見交換をしてほしいというお願いをしている。中学校によって多少やり方は異なるが、今後行う際に、こういった形で意見を吸い上げてきたのか、生徒会役員だけの意見なのか、というのを聞いてみたいと思う。

中学生が誰でも意見を言える状態の意見交換会を、少なくとも年に1回は設けていきたいと思う。

（新沼会長）

3つの中学校でそれぞれ地域性も出ていて、大変参考になる資料かと思う。

（2）第6次総合計画総論及び基本構想について

事務局（企画政策課長）より資料2-1（14ページまで）に基づき説明

●質疑

（新沼会長）

11ページのSWOT分析については、手法についてどこかで説明を加えるということではよろしいか。

（事務局）

その通りである。

（新沼会長）

12ページのまちづくりの視点・課題整理の1番に記載の「こども」と「子ども」でひらがなと漢字が混在しているが、何か意図があるのか。

（事務局）

こども家庭庁が設置されたときに、「こども」の定義が新しくできた。注釈を入れ、わかりやすく修正させていただく。

（山田委員）

まちづくりの視点・課題整理に外国人に関することが何も書かれていないのが残念。今後の総合計画の課題なのであれば、触れるべきである。

(事務局)

まちづくりの視点・課題整理の6番で、「人種や国籍、性別、年齢などを問わず誰もが参加し、関わり合うことができるような多文化共生の社会づくり」と整理をしている。外国人の方の人口が増加しているため、しっかりと考えていきたい。

(小浮市長)

外国人が急増し、これからも増え続けるという背景が埋没しているように感じるため、もう少し外国籍やLGBTQ+のことなどを丁寧に説明していきたい。

(新沼会長)

いただいたご意見等をふまえ、修正した上で承認ということによろしいか。

(一同)

承認

事務局（企画政策課長）より資料2-1(15ページ)～2-3に基づき説明

●質疑

(中野委員)

総合計画ごとに将来都市像が決まっていたが、似たような標語ベースであるのは、何か文字数などの決まりがあるのか。

また、今回候補として出ている中から考えたいと思うが、もっとスローガンのような、ふるさと納税やポスター等で使用できる汎用性のある言葉で、豊明市ならではのものがあって面白いのではないか。

(事務局)

特に決まりはないが、市内外に発信していく言葉であるため、メッセージ性の強い言葉が有効的だと思う。インタビュー等を行ってきた中で、「共生」や「つながり」などの市民の共通した理想のまちへの思いを外さないようにしたい。その中で、より良いアイデアなどがあれば、ぜひご意見をいただきたい。

(小浮市長)

現状、計画上の将来都市像は「みんなでつなぐしあわせのまち」であるが、外向きの観光用キャッチコピーは8年前に決めた「大金星のまち」である。桶狭間の古戦場伝説の歴史と、中京競馬場があるということをつまえた言葉である。将来都市像は市民に方向性を示すキャッチフレーズとして考えている。観光用キャッチコピーに関しては、そろそろ変え時だと思っているので、何か他にPRの用語があればアイデアをいただきたい。

(事務局)

将来都市像について、何かアイデアがあれば市にメールまたは電話でご連絡いただきたい。

(新沼会長)

いただいたご意見等をふまえ、修正した上で承認ということによろしいか。

(一同)

承認

(3) 今後のスケジュールについて

事務局（企画政策課長）より資料3に基づき説明

4. その他

次回の審議会は 2025 年 3 月 27 日（木曜日）14 時 30 分からを予定。

出席委員 長山加代子、服部力、松本昇、新沼英明、石田泰城、佐藤浩一、尾崎芳美、近藤俊秀、加藤誠、山田善彦、高井勇輔（安藤直樹委員 代理）、佐藤元紀、岡裕香、中野憲一、古川幸子

欠席委員 近藤明、丹羽秀行、石原慎

市職員 市長、副市長、教育長、行政経営部長、市民生活部長、健康福祉部長、経済建設部長、議会事務局長、教育部長、東部知多衛生組合事務局長、尾三消防組合事務局長

事務局 企画政策課長、企画政策課長補佐、企画政策課職員 2 名、
（一社）地域問題研究所 3 名